

(様式4) 継続事業中間評価調査 (平成31年度実施事業)

評価確定日(令和2年7月14日)

事業コード		政策コード		政策名	少年非行防止・保護総合対策の推進								
事業名	「なまはげ」少年サポート事業	施策コード		施策名	非行少年を生まない社会づくりの推進								
		目標コード		施策目標名	少年の非行防止・健全育成活動の推進								
部名	警察本部	課名	少年女性安全課	係名	少年サポート係	(tel)3093	担当課長名	渡部 仁	担当者名	藤島 洋子			
評価対象事業の内容									事業年度	H19 年度～ 年度			
<p>1-1. 事業実施の背景(施策目的達成のための必要性)</p> <p>非行少年数については減少傾向にあるものの、悪質な非行事案が断続的に発生している。また、インターネット上のSNS等を利用した少年の福祉を害する犯罪や、不審者からの声掛け事案等が後を絶たないほか、いじめ問題など、少年を取り巻く情勢は依然として予断を許さない状況にある。このため、児童等の安全確保対策や地域安全情報のきめ細かな収集と提供、問題を抱えた児童・生徒に対する学校と警察が連携した対応など、児童・生徒を非行や犯罪被害から守る取組を強化する必要がある。</p>				<p>3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)</p> <p>スクールサポーターがパイプ役となり学校・地域・警察が一体化した取組を行うことによって、児童・生徒の非行や犯罪の被害が未然に防止され、少年を健全に育む地域社会が実現する。</p>				<p>4. 重点施策推進方針との関係</p> <input checked="" type="checkbox"/> 重点推進事項 <input type="checkbox"/> その他の事業					
<p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の問題点</p> <p>全国的に、少年による凶悪事件や社会的に弱い立場にある児童の犯罪被害等が散発している。県民は、同様の発生が起こるかもしれないという危機感を持っており、体感治安は向上していない。</p>				<p>①事業の実施主体</p> <p>警察本部、9警察署</p>				<p>5. 目的達成のための方法</p>					
<p>②事業の対象者・団体</p> <p>県内の学校等(幼稚園・保育園を含む)、保護者、地域住民</p>				<p>③達成のための手段</p> <p>スクールサポーターが、学校や地域と連携した少年の非行防止及び立ち直り支援、学校等における児童等の安全確保対策、非行・犯罪被害防止教育の支援、地域安全情報の把握と提供等の活動を通じて、少年の非行・犯罪被害防止対策を推進する。</p>				<p>6. 前回評価結果等</p> <input checked="" type="checkbox"/> 実施又は継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 再検討又は縮小・休廃止					
<p>2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの)</p> <p>①ニーズを把握した対象 <input type="checkbox"/> 受益者 <input checked="" type="checkbox"/> 一般県民(時期: 年 月)</p> <p>②ニーズの把握の方法</p> <p><input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 各種委員会及び審議会 <input type="checkbox"/> ヒアリング <input type="checkbox"/> インターネット</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他の手法(具体的に)</p> <p>③ニーズの具体的内容</p> <p>教育現場においては、児童・生徒の問題行動への対策や児童の危険回避能力・自己防衛能力の向上が喫緊の課題となっており、警察職員OBとして専門的な知識と経験を有するスクールサポーターからの指導や助言が有効であるとの評価を得ている。</p>				<p>①指摘事項</p> <p>スクールサポーターが専門的な知識と経験を生かし、学校と地域とのパイプ役として行う活動は、少年の非行防止、子供の安全確保を図るために有効で効率的な事業であることから、継続して推進する必要がある。</p>				<p>②指摘事項への対応</p> <p>事業の継続に必要な予算の獲得に努めた。</p>					
7. 事業の全体計画及び財源													
事業内訳コード	事業項目	左の説明					27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	全体(最終)計画
	スクールサポーターの活動に要する経費	学校や地域とのパイプ役として、少年の非行防止及び少年の立ち直り支援、学校等における児童等の安全確保対策、非行・被害防止教育の支援、地域安全情報の把握と提供等を行う。					10,895	14,023	14,086	14,017	14,018	16,173	
予算額(千円)						10,895	14,023	14,086	14,017	14,018	16,173		
財源内訳	国庫補助金												
	県債												
	その他						46	60	48	36	36	42	
	一般財源						10,846	13,963	14,038	13,981	13,982	16,131	

8. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

指標名 学校等における児童等の安全確保対策件数（年度）

指標の種類 成果指標 業績指標

指標式 学校等における児童等の安全確保対策回数増加を指標とする

①年度別の目標値（見込まれる効果）

指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	最終年度
目標a	8500	8800	10000	10000	11000	12000	10000	
実績b	8710	9901	10654	10654	11739	10877		
b/a	102.5%	112.5%	106.5%	106.5%	106.7%	90.6%	0.0%	
東北								
全国								

②データ等の出典 非行・犯罪被害防止教室回数（年度）

③把握する時期 当該年度中 月 翌年度 4 月 翌々年度 月

指標名 地域安全情報等の把握及び提供件数（年度）

指標の種類 成果指標 業績指標

指標式 地域安全情報等の把握及び提供件数増加を指標とする

①年度別の目標値（見込まれる効果）

指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	最終年度
目標a	4500	4500	5000	5500	5500	5500	5400	
実績b	4084	4980	5376	5999	4599	4651		
b/a	90.8%	110.7%	107.5%	109.1%	83.6%	84.6%	0.0%	
東北								
全国								

②データ等の出典 地域安全情報等の把握及び提供件数（年度）

③把握する時期 当該年度中 月 翌年度 4 月 翌々年度 月

指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②具体的な把握方法

③把握した効果

④データ等の出典

⑤把握する時期 当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月

所管所属長による評価

		評価結果
必要性の観点	現状の課題に照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 児童・生徒を非行や犯罪の被害から守る対策を効果的に推進するためには、学校・地域と警察が一体となった取組が必要であるが、関係機関等においては必ずしも十分な体制が確保されているとはいえない現状にあることから、パイプ役として専門性の高いスクールサポーターの活動が求められている。	<input checked="" type="checkbox"/> A
	住民ニーズに照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 少年に関わる事件や犯罪被害については社会的反響が大きく、県民も身近な問題として捉えており、その不安感を解消するためにも、スクールサポーターの活動が必要とされている。併せて個々の事案に即応した予防警戒活動も求められている。	<input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
	法令・条例上の要請等	
理由		
有効性の観点	事業目的の達成状況 評価の対象 <input type="checkbox"/> 対象 <input type="checkbox"/> 対象外 <input type="checkbox"/> a <input checked="" type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 【理由】 スクールサポーターは、学校のみならず地域における児童・生徒の活動場所や非行や犯罪被害の発生しやすい場所をきめ細かく訪問・巡回しながら、情報の把握や提供等を幅広く行っている。また、児童・生徒と直に接しながら活動するため、非行及び犯罪の被害防止のほかいじめ問題への対応に関しても高い有効性が認められる。	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
	事業の経済性の妥当性 <input type="checkbox"/> a <input checked="" type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c 【理由】 スクールサポーターは、非常勤職員としての限られた勤務時間の中で、年間10,877回の児童等の安全確保対策、4,651回の地域安全情報等の把握・提供を、警察職員OBとしての専門性を生かして実施している。また、活動の範囲は学校から管内一円に及び、地域の安全・安心に寄与しており、費用対効果が高いと認められる。	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
効率性の観点	事業の妥当性 <input type="checkbox"/> A(妥当性が高い) <input checked="" type="checkbox"/> B(概ね妥当である) <input type="checkbox"/> C(妥当性が低い)	
	対応方針 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持で継続 <input type="checkbox"/> 見直して継続 <input type="checkbox"/> 休廃止 スクールサポーターの知識、経験を生かした訪問・巡回活動は、学校や地域における少年非行防止、子供の安全確保を図るために有効であるほか、学校と地域、関係機関とのパイプ役として必要で効率的な事業であることから、事業の充実も視野に入れながら継続して推進する必要がある。	
総合評価	評価結果の当該事業への反映状況（対応方針）	
	政策評価委員会意見（諮問する事業についてのみ記載）	